

平成22年度 春夏作芝関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験成績
検討会は、平成22年11月16日(火)にメルパルク大阪に
おいて開催された。

この検討会には、試験場関係者13名、委託関係者50
名ほか、計74名の参集を得て、除草剤34薬剤(235点)、

生育調節剤5薬剤(44点)について、試験成績の報告と検
討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表
に示す通りである。

平成22年度 春夏作芝関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

注)アグライは新たに判定された部分

A. 除草剤		試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (又は試験中など (数))	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
1. AEH-002 顆粒水和 ヨード・スルホンアミドナトリウム 塩:10.0% [ハ・イ・エ・ロ・フ・サ・イ・エ・ス]	コライシ	適用性 継続	グランド・イ・那須GC 太平洋C美野里C J埼玉 真名CC 関西G研 門司GC	ねらい 多年生広葉雑草への拡大 対象 雑草 一年生(科) 一 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 シロツメクサ・オオバコ・カタバミ・タンポポ等 その他 設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.015g <200~300mL> <水量> 0.02g <200~300mL> <水量> 0.025g <200~300mL> <水量> /m ² 対) イゾア-RDF 雑草発生初期 0.03g <200~300mL>	実・ 継	実) [春夏作;(コライシハ・ジハハ)一年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前 ・0.01~0.02g<200~300mL>/m ² ・土壌処理 ・芝生育期、雑草発生初期 ・0.01~0.015g<200~300mL>/m ² ・茎葉兼土壌処理 [春夏作;(コライシハ・ジハハ)多年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・0.015~0.025g<200~300mL>/m ² ・茎葉兼土壌処理
	ジハハ	適用性 継続	グランド・イ・那須GC 太平洋C美野里C J埼玉 真名CC 関西G研 門司GC	ねらい 多年生広葉雑草への拡大 対象 雑草 一年生(科) 一 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 シロツメクサ・オオバコ・カタバミ・タンポポ等 その他 設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.015g <200~300mL> <水量> 0.02g <200~300mL> <水量> 0.025g <200~300mL> <水量> /m ² 対) イゾア-RDF 雑草発生初期 0.03g <200~300mL>	継	・0.025gでの年次変動の確認(コライシハ・ジハハ) ・0.01gでの一年生広葉雑草に対する効果の確認 (コライシハ・ジハハ) ・倍量薬害試験での確認(コライシハ・ジハハ) ・運用試験での確認(コライシハ・ジハハ) ・実証試験での確認(コライシハ・ジハハ) ・萌芽期薬害の確認(コライシハ・ジハハ) ・高温期薬害の確認(コライシハ・ジハハ) ・緑化木への影響の確認
2. AKD-7175 粒 DBN:1.2% ジメナジン:3% [ア・カ・サ・シ・ヨ]	ジハハ	適用性 継続	J埼玉 静岡G場協会 門司GC	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 全般 その他 設計 土壌処理 芝生育期(雑草発生前) 薬量 (水量) 8g, 10g, 12g <水量> 対) 一任 <水量> /m ²	実・ 継	実) [春夏作;(ジハハ)一年生雑草、多年生広葉雑草] ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・8~12g/m ² ・土壌処理 継) ・ヤブツグに対する効果の確認(ジハハ) ・倍量薬害試験での確認(ジハハ) ・萌芽期薬害の確認(ジハハ) ・高温期薬害の確認(ジハハ) ・緑化木への影響の確認
	ジハハ	適用性 継続	J埼玉 静岡G場協会 門司GC	ねらい 雑草発生初期 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) 一 多年生広葉 全般 その他 設計 土壌処理 芝生育期(雑草発生初期) 薬量 (水量) 8g, 10g, 12g <水量> 対) 一任 <水量> /m ²		

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等		判 定	判定内容	
3. BAH-0902 マイクロバ セル ベンチレート:38.7% 〔BASFジャパン〕	コウライシ バ	適用性 継続	太平洋C美野里C J埼玉 新中国G研 門司GC (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 雑草 (4)	雑草発生前	実・ 継 継) ・効果、薬害の確認 (クナックブーラーグラス) ・倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・連用試験での確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・実証試験での確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・萌芽期薬害の確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・高温期薬害の確認 (コウライシバ、シバ、バーミューダグラス) ・緑化木への影響の確認		
					一年生休科		全般	
					一年生広葉		全般(雑科を除く)	
					多年生休科		—	
	多年生広葉	—						
	その他	—						
	設計 薬量 (水量) /㎡	土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クナック水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>						
		シバ	適用性 継続	太平洋C美野里C J埼玉 新中国G研 門司GC (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 雑草 (4)		雑草発生前	
							一年生休科	全般
							一年生広葉	全般(雑科を除く)
多年生休科	—							
多年生広葉	—							
その他	—							
設計 薬量 (水量) /㎡	土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クナック水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>							
クナックブー ラーグ ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 対 象 雑草 (2)	殺草スプラーム、薬害の確認				
				一年生休科	全般			
				一年生広葉	全般			
				多年生休科	—			
多年生広葉	—							
その他	—							
設計 薬量 (水量) /㎡	土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.4ml <200-300ml> 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 対) クナック水和 芝生育期 雑草発生前 0.1g <200-300ml>							
クナックブー ラーグ ラス	適用性 新規	札幌国際CC 泉パークランドGC 埼玉スタジアム2002 (3)	ねらい 対 象 雑草 (3)	雑草発生前				
				一年生休科	全般			
				一年生広葉	全般(雑科を除く)			
				多年生休科	—			
多年生広葉	—							
その他	—							
設計 薬量 (水量) /㎡	土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.4ml <200-300ml> 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 対) クナック水和 芝生育期 雑草発生前 0.1g <200-300ml>							
バーミュー ダグラス	適用性 継続	埼玉スタジアム2002 浜松シーガルGC 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 対 象 雑草 (4)	雑草発生前				
				一年生休科	全般			
				一年生広葉	全般(雑科を除く)			
				多年生休科	—			
多年生広葉	—							
その他	—							
設計 薬量 (水量) /㎡	土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クナック水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>							
4. BAH-1004 液 既知化合物:48% (w/v) 〔BASFジャパン〕	コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 対 象 雑草 (2)	殺草スプラーム、薬害の確認			
					一年生休科	—		
					一年生広葉	全般		
					多年生休科	—		
	多年生広葉	—						
	その他	—						
	設計 薬量 (水量) /㎡	茎葉処理 芝生育期 雑草発生前 0.5ml <100-200ml> 0.75ml <100-200ml> 1.0ml <100-200ml> 対) 慣行						
	コウライシ バ	適用性 継続	埼玉スタジアム2002 浜松シーガルGC 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 対 象 雑草 (4)	雑草発生前			
					一年生休科	全般		
					一年生広葉	全般(雑科を除く)		
多年生休科					—			
多年生広葉	—							
その他	—							
設計 薬量 (水量) /㎡	土壌処理 芝生育期 雑草発生前 0.5ml <200-300ml> 0.6ml <200-300ml> 0.7ml <200-300ml> 対) クナック水和 芝生育期 雑草発生前 0.12g <200-300ml>							
コウライシ バ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 対 象 雑草 (2)	殺草スプラーム、薬害の確認				
				一年生休科	—			
				一年生広葉	全般			
				多年生休科	—			
多年生広葉	—							
その他	—							
設計 薬量 (水量) /㎡	茎葉処理 芝生育期 雑草発生前 0.5ml <100-200ml> 0.75ml <100-200ml> 1.0ml <100-200ml> 対) 慣行							

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・継 の別	試験担当場所 <>は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判定	判定内容
4. BAH-1004 液 つづき ハ	コウライシ ハ	適用性 新規	太平洋C美野里C 浜松シサイトGC 関西G研 (3)	ねらい 雑草生育期茎葉処理 対象 雑草 一年生(科) — 一年生広葉 全般(マノ科を除く) 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 ヒメグサ 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
				ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) — 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 ヒメグサ 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
	ジハ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) — 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 ヒメグサ 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
				ねらい 雑草生育期茎葉処理 対象 雑草 一年生(科) — 一年生広葉 全般(マノ科を除く) 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 ヒメグサ 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 0.5ml <100-200ml> (水量) 0.75ml <100-200ml> (対) 慣行 1.0ml <100-200ml> /㎡ 対) 慣行		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 J埼玉 関西G研 (3)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡	継	継 ・効果、薬害の確認 (コウライシハ、ジハ)
				ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
5. BAH-1005 粒 既知化合物A:0.75% 既知化合物B:1% [BASFジャパン]	コウライシ ハ	作用性 新規	東日本G研 新中国G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
				ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
	ジハ	作用性 新規	東日本G研 関西G研 (2)	ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
				ねらい 殺草スペクトラム、薬害の確認 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
	コウライシ ハ	適用性 新規	太平洋C美野里C 浜松シサイトGC (2)	ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		
				ねらい 雑草発生前 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) — 多年生広葉 — その他 — 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 10g, 20g, 30g (水量) 対) 慣行 /㎡		

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・雑 の 別	試験担当場所 ＜は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
6. BS-2 粒 ベンディメタリン:1.1% N:P:K=10:5:5 複 合 肥料 [エス・ティ・エス バイオテック]	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 西日本G研 (2)	ねらい 雑草発生前、年次変動の確認 対 象 一年生雑草 一年生広葉 全般 (雑科を除く) 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 20g, 30g, 40g (水量) 対) テマナックス 芝生育期 雑草発生前 30g /㎡	実・ 雑	実) [春夏作: (コウライシバ、) 一年生雑草 (雑科を除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 雑) ・ 連用試験での確認 (コウライシバ) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ) ・ 萌芽期被害の確認 (コウライシバ) ・ 緑化木への影響の確認
7. DAH-0808 EW ジチオビル: 24% [ダウ・ケミカル 日本]	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 西日本G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 メヒシバ 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>	実・ 雑	実) [春夏作: (コウライシバ、) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1～0.2ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作: (コウライシバ、) 一年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.2～0.3ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作: (コウライシバ、) ハズソウ] ・ 芝生育期、雑草発生初期 ・ 0.2～0.3ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作: (カンタキープ ルーグラス) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1～0.2ml <200～300mL>/㎡ ・ 土壌処理 注) ・ 高温期の使用では葉の濃緑化などがみられる事がある (カンタキープ ルーグラス) ・ 萌芽期での使用では葉先が白化する事がある (カンタキープ ルーグラス) 雑) ・ メヒシバ 発生初期処理での効果、薬害の確認 (コウライシバ、) メヒシバ ・ ヤハズソウ 発生初期処理での効果について年次変動の確認 (コウライシバ、) メヒシバ ・ 連用試験での確認 (コウライシバ、) メヒシバ、カンタキープ ルーグラス ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、) メヒシバ、カンタキープ ルーグラス ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ バ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 新中國G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>		
	メヒシバ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 西日本G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>		
	メヒシバ	適用性 新規	東日本G研 新中國G研 新中國G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (メヒシバ) 対 象 一年生雑草 一年生広葉 一 多年生雑草 一 多年生広葉 一 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 0.1ml <200-300ml> (水量) 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 参) アーゲン液剤 芝生育期 雑草生育期 (発生初 期) 0.4ml <200-300ml>		
8. GG-155 顆粒水和 イザラズ:75% [日本ケミカル・インターナショナル] デジ	コウライシ バ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中國G研 (4)	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生雑草 一年生広葉 全般 多年生雑草 一 多年生広葉 全般 その他 一 設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 0.1g <200-300ml> (水量) 0.15g <200-300ml> /㎡ 0.2g <200-300ml> 対) イブ・エー・エーF 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>	実・ 雑	実) [春夏作: (コウライシバ、) 一年生広葉雑草、多年生広 葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 0.1～0.2g <200～300mL>/㎡ ・ 茎葉兼土壌処理 雑) ・ 連用試験での確認 (コウライシバ、) メヒシバ ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、) メヒシバ ・ 萌芽期被害の確認 (コウライシバ、) メヒシバ ・ 緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注) ア/ダ/ラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
8. GG-155 顆粒水和 つづき	コウライソ ハ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (5)	ねらい 雑草発生初期		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 全般		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.1g <200-300ml> /㎡ 0.15g <200-300ml> 0.2g <200-300ml> 対) シバ/イト40SC 芝生育期 雑草発生初期 0.1ml <200-300ml>		
	ソシハ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 (4)	ねらい 雑草発生前		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 全般		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生前 薬量 (水量) 0.1g <200-300ml> /㎡ 0.15g <200-300ml> 0.2g <200-300ml> 対) イソバ-ルDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>		
	ソシハ	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中国G研 西日本G研 (5)	ねらい 雑草発生初期		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 全般		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 0.1g <200-300ml> /㎡ 0.15g <200-300ml> 0.2g <200-300ml> 対) シバ/イト40SC 芝生育期 雑草発生初期 0.1ml <200-300ml>		
9. GG-181 粒 シバ/イト:1.0% DRN:0.5% N:P:K:Mg=12:8:7:3 [日本ケミカル・アグロ デコ]	コウライソ ハ	信量薬 害 新規	東日本G研 静岡G場協会 (2)	ねらい 高温期処理での薬害確認	実・ 実) [春夏作; (コウライソ)一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ] ・芝生育期、雑草発生前〜初期 ・20〜40g/㎡ ・土壌処理 雑) ・スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライソ) ・信量薬害試験での確認 (コウライソ) ・連用試験での確認 (コウライソ) ・実証試験での確認 (コウライソ) ・緑化木への影響の確認	
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 一		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 薬量 (水量) 0.2g <200ml> /㎡ 0.4g <400ml> 0.8g <800ml>		
	ソシハ	信量薬 害 新規	東日本G研 静岡G場協会 (2)	ねらい 高温期処理での薬害確認		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 一		
				その他		
				設計 茎葉兼土壌処理 芝生育期 薬量 (水量) 0.2g <200ml> /㎡ 0.4g <400ml> 0.8g <800ml>		
	コウライソ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (多年生広葉)		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 全般		
				その他		
				設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 20g, 30g, 40g /㎡ 対) ベンバ-ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g		
	コウライソ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 雑草発生初期 (スギナ)		
				対 象 一年生(科) 一		
				雑草 一年生広葉 一		
				多年生(科) 一		
				多年生広葉 一		
				その他 スギナ		
				設計 土壌処理 芝生育期 雑草発生初期 薬量 (水量) 20g, 30g, 40g /㎡ 対) ベンバ-ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g		

A. 除草剤

注) アグーライは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当所 は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
10. GG-182 粒 シタジソン:1.0% メコフ・ロップ・Pカリウム 塩:1.0% 〔日本カリーアント・カー テン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ〕 ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 注) ・ 高温期での処理はコウライシハに葉害を生じることがある 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他 スギナ	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ〕 ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
11. GG-191 粒 トリアツフラム:0.1% DBN:0.5% N:P:K:Mg=12:8:7:3 〔日本カリーアント・カー テン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ〕 ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他 スギナ	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草、多年生広葉雑草、スギナ〕 ・ 芝生育期、雑草発生前～初期 ・ 20～40g/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ スギナに対する効果について年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
12. HPW-103 フロア ワザリン:15% 〔保土谷UPL〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ、ジハハ) 一年生雑草(雑科を除く)〕 ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.5～0.8mL/200～300mL/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 0.5mLでの年次変動の確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 緑化木への影響の確認
	ジハハ	適用性 継続	東日本G研 ヤシウスCC 新中国G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ、ジハハ) 一年生雑草(雑科を除く)〕 ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.5～0.8mL/200～300mL/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 0.5mLでの年次変動の確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 連用試験での確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ、ジハハ) ・ 緑化木への影響の確認
13. HPW-104 液 フツアム:0.2% 〔保土谷UPL〕	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草〕 ・ 芝生育期雑草生育期(草丈10cm以下) ・ 100～150mL/㎡(希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉が黄化することがある 継) ・ 倍量薬害での確認(コウライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 継続	東日本G研 新中国G研 西日本G研	ねらい (3) 対象 雑草 設計 薬量 (水量) /㎡ 対) ベンボ・ル粒剤 芝生育期 雑草発生初期 15g その他	実・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草〕 ・ 芝生育期雑草生育期(草丈10cm以下) ・ 100～150mL/㎡(希釈せずそのまま散布) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉が黄化することがある 継) ・ 倍量薬害での確認(コウライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注) アグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 (又は試験中など (数))	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
14. HPW-106 フロア [®] ル エト [®] シ [®] ニ [®] :35% [保土谷UPL]	ベント [®] グ ラス	作用性 新規	植調研	(1) ねらい 雑草と効果の確認 対 象 一年生作物 全般(ベント [®] グ 雑草 一年生広葉 多年生作物 多年生広葉 その他 設計 土壌処理 ベント [®] グ 発生前、1L、2L、3L 薬量 0.75ml <200ml> (水量) 1.0ml <200ml> /㎡ 2.0ml <200ml>	継	・効果、薬害の確認(ベント [®] グラス)
	ベント [®] グ ラス	作用性 新規	関西G研	(1) ねらい ベント [®] グラス品種間感受性差 対 象 一年生作物 全般(ベント [®] グ 雑草 一年生広葉 多年生作物 多年生広葉 その他 設計 土壌処理 ベント [®] グラス生育期 薬量 2.0ml <200ml> (水量) /㎡		
	ベント [®] グ ラス	適用性 新規	東日本G研 真名CC 新中國G研	(3) ねらい 雑草発生前(ベント [®] グ) 対 象 一年生作物 全般(ベント [®] グ 雑草 一年生広葉 多年生作物 多年生広葉 その他 設計 土壌処理 ベント [®] グラス生育期、ベント [®] グ 発生前 薬量 1.0、1.5、2.0ml <200ml> (水量) /㎡ 比) チュベ [®] 水和剤 1.2g		
	ベント [®] グ ラス	適用性 新規	東日本G研 真名CC 新中國G研	(3) ねらい 雑草発生初期(ベント [®] グ) 対 象 一年生作物 全般(ベント [®] グ 雑草 一年生広葉 多年生作物 多年生広葉 その他 設計 土壌処理 ベント [®] グラス生育期、ベント [®] グ 発生初期 薬量 1.0、1.5、2.0ml <200ml> (水量) /㎡ 比) チュベ [®] 水和剤 1.2g		
15. HSW-831 (L) 液 エンド [®] ケルニ [®] トリ [®] ム塩 :1.85% [三井化学アグロ]	ベント [®] グ ラス	適用性 継続	東日本G研 真名CC 新中國G研	(5) ねらい スズメノカタビ [®] 生育期、反復処理 対 象 一年生作物 雑草 一年生広葉 多年生作物 多年生広葉 その他 スズメノカタビ [®] 設計 茎葉処理 シバ [®] 生育期:スズメノカタビ [®] 生育期 ①2週間おき3回処理 薬量 1.0ml <100ml> (水量) 1.5ml <100ml> /㎡ 2.0ml <100ml> ②2週間おき6回処理 1.0ml <100ml> 1.5ml <100ml> 2.0ml <100ml>	実・ 継	実) [春夏作:(ベント [®] グラス)スズメノカタビ [®]] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 1~2ml<100ml>/㎡ 3~6回(散布間隔は2週間を目安とする) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉色が悪くなることもある 継) ・ 倍量薬害での確認(ベント [®] グラス) ・ 実証試験での確認(ベント [®] グラス) ・ 高温期薬害の確認(ベント [®] グラス)
	ベント [®] グ ラス	適用性 継続	東日本G研 真名CC 新中國G研	(3) ねらい 雑草生育期(草丈30cm以下) 対 象 一年生作物 雑草 一年生広葉 全般 多年生作物 多年生広葉 その他 スズメノカタビ [®] 設計 茎葉処理 生育期 雑草生育期(草丈30cm以下) 100ml(希釈しないで散布) 150ml(希釈しないで散布) 200ml(希釈しないで散布) 対) MCPP液剤 生育期 雑草生育期(草丈30cm以下) 500ml/10a <100-200L/10a>	実・ 継	実) [春夏作:(コウライシバ [®])一年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 100~200ml/㎡<希釈せずそのまま散布> ・ 茎葉処理 [春夏作:(ベント [®] グラス)スズメノカタビ [®]] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 150~200ml/㎡<希釈せずそのまま散布> ・ 茎葉処理 継) ・ 年次変動の確認(ベント [®] グラス) ・ スズメノカタビ [®] に対する効果の確認(コウライシバ [®] 、ベント [®] グラス) ・ 倍量薬害での確認(コウライシバ [®] 、ベント [®] グラス) ・ 高温期薬害の確認(コウライシバ [®] 、ベント [®] グラス) ・ 緑化木への影響の確認
16. HW-013 液 メコ [®] プロ [®] カリ [®] ム塩 :0.25% [日本ケミカルインダストリアル] グーデン]	ベント [®] グ ラス	適用性 継続	東日本G研	(3) ねらい 雑草生育期(草丈30cm以下) 対 象 一年生作物 雑草 一年生広葉 全般 多年生作物 多年生広葉 その他 スズメノカタビ [®] 設計 茎葉処理 生育期 雑草生育期(草丈30cm以下) 100ml(希釈しないで散布) 150ml(希釈しないで散布) 200ml(希釈しないで散布) 対) MCPP液剤 生育期 雑草生育期(草丈30cm以下) 500ml/10a <100-200L/10a>	実・ 継	実) [春夏作:(コウライシバ [®])一年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 100~200ml/㎡<希釈せずそのまま散布> ・ 茎葉処理 [春夏作:(ベント [®] グラス)スズメノカタビ [®]] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 150~200ml/㎡<希釈せずそのまま散布> ・ 茎葉処理 継) ・ 年次変動の確認(ベント [®] グラス) ・ スズメノカタビ [®] に対する効果の確認(コウライシバ [®] 、ベント [®] グラス) ・ 倍量薬害での確認(コウライシバ [®] 、ベント [®] グラス) ・ 高温期薬害の確認(コウライシバ [®] 、ベント [®] グラス) ・ 緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注) アナログは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種・類 新・継 の別	試験担当場所 ↳は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判定	判定内容
17. KUH-079 顆粒水和 ビリスルファン:50.0%	カンタッキー ブルーグラス	適用性 継続	札幌国際CC 泉パナソニックGC グランドイ那須GC 静岡G場協会	ねらい 対象 雑草 (4) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.03g <100-200ml> 0.04g <100-200ml> 0.06g <100-200ml> 対) プルート・スマッシュSC 雑草発生初期(シハ)生育期) 0.03ml <100-200ml>	実・ 継	実) [春夏作:(コライシハ)一年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.03~0.04g <水量100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 [春夏作:(カンタッキーブルーグラス)一年生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期 雑草発生初期 ・ 0.04~0.06g <水量100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 0.02gでの効果の確認(コライシハ) ・ 多年生広葉雑草への効果の確認(コライシハ) ・ 薬害の発生要因について(カンタッキーブルーグラス) ・ 0.03gでの効果の確認(カンタッキーブルーグラス) ・ 倍量薬害での確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 連用試験での確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 実証試験での確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 萌芽期薬害の確認(コライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コライシハ、カンタッキーブルーグラス) ・ 緑化木への影響の確認
18. LNS-001 顆粒水和 フルベリスルファン:50%	コライシハ	適用性 新規	東日本G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 対象 雑草 (3) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.03g <200-300ml> 0.045g <200-300ml> 0.06g <200-300ml> 対) フグリン 芝生育期 雑草発生初期 0.3g <150-300ml>	実・ 継	実) [春夏作:(コライシハ、ジシハ)一年生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草発生初期(3葉期まで) ・ 0.03~0.06g<100~200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ ヒメカゲに対する効果の確認(コライシハ) ・ ハスガに対する効果の確認(コライシハ) ・ 効果・薬害の確認(ハントグラス) ・ 倍量薬害試験での確認(コライシハ、ジシハ) ・ 実証試験での確認(コライシハ、ジシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	ハントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 静岡G場協会 新中国G研	ねらい 対象 雑草 (3) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.03g <200-300ml> 0.045g <200-300ml> 0.06g <200-300ml> 対) フグリン 芝生育期 雑草発生初期 0.3g <150-300ml>		
19. MAC-1 フロアブル タミロン:45.0%(W/W)	ハントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研	ねらい 対象 雑草 (4) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 1.0ml <200-300ml> 1.5ml <200-300ml> 2.0ml <200-300ml> 対) エグザ水和剤 ジシハ発生前 1.0g <250ml>	実・ 継 (従 来 ど お り)	実) [春夏作:(ハントグラス、カンタッキーブルーグラス)スズメノカタビラ] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 1~2ml<200~300mL>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ ジシハに対する効果・薬害の確認(ハントグラス)
20. MAH-0802 フロアブル ハントグラス:35%	コライシハ	適用性 継続	J埼玉 新中国G研 かごしま空港CC	ねらい 対象 雑草 (3) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 0.5ml <200ml> 0.65ml <200ml> 0.8ml <200ml> 比) 慣行 芝生育期、雑草発生前	実・ 継	実) [春夏作:(コライシハ)一年生雑草(雑科を除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.5~0.8mL<200mL>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 効果・薬害の確認(ジシハ) ・ 散布水量300mLでの効果・薬害の確認(コライシハ、ジシハ) ・ 倍量薬害での確認(コライシハ) ・ 連用試験での確認(コライシハ) ・ 実証試験での確認(コライシハ) ・ 萌芽期薬害の確認(コライシハ) ・ 高温期薬害の確認(コライシハ) ・ 緑化木への影響の確認

A. 除草剤

注) アダグ・ラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
20. MAH-0802 フォアフル つづき	ソバ	作用性 新規	新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生イ科 全般 雑草 一年生広葉 全般(イ科を除く) 多年生イ科 -- 多年生広葉 -- その他 -- 設計 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 薬量 0.35ml <200ml> <水量> 0.5ml <200ml> /㎡ 0.65ml <200ml> 0.8ml <200ml> 比) 慣行 芝生育期、雑草発生前		
	ソバ	適用性 新規	J埼玉 新中国G研 かごしま空港CC	ねらい 雑草発生前 対 象 一年生イ科 全般 雑草 一年生広葉 全般(イ科を除く) 多年生イ科 -- 多年生広葉 -- その他 -- 設計 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 薬量 0.5ml <200ml> <水量> 0.65ml <200ml> /㎡ 0.8ml <200ml> 比) 慣行 芝生育期、雑草発生前		
21. MBH-021 液 アミジクロピラクトール :21.2% [丸和イテシム]	コウライソバ	適用性 継続	東日本G研 植調研 新中国G研	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生イ科 -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生イ科 -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 0.015ml <200ml> <水量> 0.02ml <200ml> /㎡ 0.03ml <200ml> 対) MCPP液剤 雑草生育期 0.5ml <200ml>	実・ 継	実) [春夏作: (コライソバ) 一年生広葉雑草、多年生広葉雑草] ・ 芝生育期、雑草生育期 ・ 0.015~0.03ml <200ml>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 倍量薬害での確認(コライソバ) ・ 連用試験での確認(コライソバ) ・ 実証試験での確認(コライソバ) ・ 萌芽期薬害の確認(コライソバ) ・ 高温期薬害の確認(コライソバ) ・ 緑化木への影響の確認
22. MBH-022 液 新規化合物A:3% 既知化合物B:42% [丸和イテシム]	ケンタッキー ブルーグラス	作用性 新規	泉パナソニックGC 埼玉スタジアム2002	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生イ科 -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生イ科 -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 0.05, 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> <水量> 対) プラスコンM 0.6ml <200ml> /㎡	継	効果、薬害の確認 (ケンタッキーブルーグラス、ライグラス)
	ケンタッキー ブルーグラス	適用性 新規	札幌国際CC	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生イ科 -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生イ科 -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> <水量> 対) プラスコンM 0.6ml <200ml> /㎡		
	ライグラス	作用性 新規	泉パナソニックGC 新中国G研	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生イ科 -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生イ科 -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 0.05, 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> <水量> 対) プラスコンM 0.6ml <200ml> /㎡		
	ライグラス	適用性 新規	札幌国際CC	ねらい 雑草生育期 対 象 一年生イ科 -- 雑草 一年生広葉 全般 多年生イ科 -- 多年生広葉 全般 その他 -- 設計 茎葉処理 芝生育期、雑草生育期 薬量 0.1, 0.15, 0.2ml <200ml> <水量> 対) プラスコンM 0.6ml <200ml> /㎡		

A. 除草剤

注) アナグ・ライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 ＜＞は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
23. NHK-061 フォアフル ビフルグロシニル:2.0% [日本農薬]	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい 雑草生育期(一年生イネ科) (2) 対象 雑草 一年生イネ科 アキメシバ、ヒシバ、スズメノカタビラを含む 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期(分げつ前まで) 薬量 1回処理: 0.4ml <100-200ml> <水量> 0.6ml <100-200ml> /㎡ 反復処理: 0.4ml→0.4ml <100-200ml>	実 ・ 継	実) [春夏作; (ヘントグラス)ヒシバ、多年生広葉雑草] 単用処理: ・ 芝生育期, 雑草生育期(分げつ前まで) ・ 0.4~0.6ml<100~200ml>/㎡ ・ 茎葉処理 反復処理(2回); ・ 芝生育期, 雑草生育期(分げつ前まで) ・ 0.4ml<100~200ml>/㎡ (散布間隔は2週間を目安とする) ・ 茎葉処理 注) ・ 一時的に葉に褐変を生じることがある 継) ・ 倍量薬害での確認(ヘントグラス) ・ 連用試験での確認(ヘントグラス) ・ 実証試験での確認(ヘントグラス) ・ 高温期薬害の確認(ヘントグラス)
	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい 雑草生育期(多年生広葉) (2) 対象 雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ナメタチ、チコチチ類を含む雑草全般 その他 ー 設計 茎葉処理 芝生育期 雑草生育期 薬量 1回処理: 0.4ml <100-200ml> <水量> 0.6ml <100-200ml> /㎡ 反復処理: 0.4ml→0.4ml <100-200ml>		
24. NP-64 フォアフル ベントキザン:20% [日本曹達]	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい 雑草生育期(キノコク) (2) 対象 雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 キノコク 設計 茎葉処理 芝生育期、キノコク生育期 薬量 0.3ml <100-200ml> <水量> 0.5ml <100-200ml> /㎡ 対) クスDF 0.045g <100-200ml>	実 ・ 継	実) [春夏作; (ヘントグラス)コナギ] ・ 芝生育期、コナギ生育期 ・ 0.5mL <100-200mL>/㎡ ・ 茎葉処理 継) ・ 0.3mLでの効果、薬害の確認(ヘントグラス) ・ 倍量薬害での確認(ヘントグラス) ・ 連用試験での確認(ヘントグラス) ・ 実証試験での確認(ヘントグラス) ・ 高温期薬害の確認(ヘントグラス)
	ヘントグ ラス	適用性 継続	関西G研 新中国G研	ねらい キノコク、体系処理での残効確認 (2) 対象 雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 キノコク 設計 茎葉処理 芝生育期、キノコク生育期 薬量 0.75ml→0.3ml <100-200ml> <水量> 1ml→0.5ml <100-200ml> /㎡ 参) キレグ→クス 2g→0.045g <200ml>		
25. NR-16 水和 既知化合物A:18.8% 既知化合物B:50.0% [日本曹達]	ヘントグ ラス	作用性 新規	東日本G研 新中国G研	ねらい 藻類発生初期 (2) 対象 雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 藻類 設計 茎葉散布 芝生育期 藻類発生初期 薬量 0.25g <500mL> <水量> 0.5g <500mL> /㎡ 1g <500mL> 対) 一任	継	継) ・ 効果、薬害の確認(ヘントグラス)
	ヘントグ ラス	適用性 新規	関西G研 新中国G研	ねらい 藻類発生初期 (2) 対象 雑草 一年生イネ科 ー 一年生広葉 ー 多年生イネ科 ー 多年生広葉 ー その他 藻類 設計 茎葉散布 芝生育期 藻類発生初期 薬量 0.5g <500mL> <水量> 1g <500mL> /㎡ 対) 一任		

A. 除草剤

注) アグライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
26. SB-201 乳 剤タイプ:25% [エス・ディー・エス ハイテック]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 関西G研 新中國G研 (4)	ねらい 雑草発生前(ヒシハ) 対 象 一年生作物 ヒシハ 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 薬量 0.2ml <200-300ml> <水量> 0.3ml <200-300ml> /㎡ 0.4ml <200-300ml> 対) テムパザン 芝生 雑草発生前 1.5g <200-300ml>	実・ 継	実) [春夏作; (ベントグラス) ヒシハ] ・芝生 雑草発生前 ・0.3~0.4ml <200-300ml>/㎡ ・土壌処理 継) ・回復処理での効果、薬害の確認(ベントグラス) ・連用試験での確認(ベントグラス) ・実証試験での確認(ベントグラス) ・高温期薬害の確認(ベントグラス)
27. SB-325 フォアフル ネトライト(TPN) :53.0% [エス・ディー・エス ハイテック]	ベントグ ラス	倍量薬 害 新規	東日本G研 新中國G研 (2)	ねらい 芝生 倍量薬害 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 薬量 0.4ml <200ml> <水量> 0.8ml <400ml> /㎡ 1.6ml <800ml>	実・ 継 (従 来 ど お り)	実) [(コウライハ、ベントグラス) 雑類] ・芝生 雑草発生前 ・1~1.54ml <1000ml>/㎡ ・土壌処理 ・回復処理の場合は20日間隔 継) ・雑草発生前処理での効果、薬害の確認(ベントグラス)
28. SB-3651 顆粒水 和 剤タイプ(TPN) :50.0% サラム(TMTD):30.0% [エス・ディー・エス ハイテック]	コウライ ハ	適用性 新規	太平洋C美野里C 新中國G研 (2)	ねらい 雑草発生前、回復処理(3回) 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 雑類 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 (3回) 薬量 2.0g <500ml> <水量> 対) テムパザン 芝生 雑草発生前 /㎡ 1ml <1000ml>	実・ 継	実) [(ベントグラス) 雑類] ・芝生 雑草発生前 ・2g <500ml>/㎡ 2~3回 (散布間隔は2週間を目安とする) ・土壌処理 継) ・効果、薬害の確認(コウライハ) ・3回処理での年次変動の確認(ベントグラス) ・実証試験での確認(ベントグラス)
	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 太平洋C美野里C 新中國G研 (3)	ねらい 雑草発生前、回復処理(3回) 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 雑類 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 (3回) 薬量 2.0g <500ml> <水量> 対) テムパザン 芝生 雑草発生前 /㎡ 1ml <1000ml>		
	ベントグ ラス	倍量薬 害 新規	東日本G研 関西G研 (2)	ねらい 高温期薬害、回復処理(3回) 対 象 一年生作物 ー 雑草 一年生広葉 ー 多年生作物 ー 多年生広葉 ー その他 雑類 設計 土壌処理 芝生 雑草発生前 (3回) 薬量 2.0g <500ml> <水量> 4.0g <1000ml> /㎡ 8.0g <2000ml>		

A. 除草剤

(注)アグ-ライは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 の試験中など (敬)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
29. SYJ-111 乳 S-メトクロル:83.7% 〔シンジエンタ ジャパン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	新中国G研	ねらい 雑草発生前、年次変動の確認 (1) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 薬量 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.25ml <200-300ml> 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> /㎡ 対) デュアル乳剤 雑草発生前、芝生育期 0.7ml <200-300ml>	実 ・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ、ノシハ) 一年生雑草〕 ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.25~0.4ml<200-300ml>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 効果、薬害の確認 (ハ-ミューダグラス) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ハ-ミューダグラス) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ハ-ミューダグラス) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ハ-ミューダグラス) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシハ、ノシハ、ハ-ミューダグラス) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシハ、ノシハ、ハ-ミューダグラス) ・ 緑化木への影響の確認
	ノシハ	適用性 継続	新中国G研	ねらい 雑草発生前 (1) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 薬量 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.25ml <200-300ml> 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> /㎡ 対) デュアル乳剤 雑草発生前、芝生育期 0.7ml <200-300ml>		
	コウライシ ハ	連用薬 害 継続	新中国G研 西日本G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 (2) 対 象 雑草 一年生付科 — 一年生広葉 — 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 薬量 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡		
	ノシハ	連用薬 害 継続	新中国G研 西日本G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 (2) 対 象 雑草 一年生付科 — 一年生広葉 — 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 薬量 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡		
30. SYJ-192 フロアアル トリフロキシスルフオナトリウム 塩:10% 〔シンジエンタ ジャパン〕	ハ-ミュー ダグラス	連用薬 害 継続	浜松シーチ付GC 新中国G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 (2) 対 象 雑草 一年生付科 — 一年生広葉 — 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 薬量 土壌処理 芝生育期、雑草発生前 (水量) 0.4ml <200-300ml> /㎡	実 ・ 継	実) 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生雑草〕 ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.025~0.05ml<100-200ml>/㎡ ・ 茎葉兼土壌処理 継) ・ 年次変動の確認 (コウライシハ) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 連用薬害試験での確認 (コウライシハ) ・ 実証試験での確認 (コウライシハ) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシハ) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシハ) ・ 緑化木への影響の確認
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 J埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前初期 (6) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 薬量 0.02ml <100-200ml> (水量) 0.025ml <100-200ml> 0.045ml <100-200ml> /㎡ 0.05ml <100-200ml> 対) モノノット顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250ml>		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 J埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前初期 (6) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 薬量 0.02ml <100-200ml> (水量) 0.025ml <100-200ml> 0.045ml <100-200ml> /㎡ 0.05ml <100-200ml> 対) モノノット顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250ml>		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 J埼玉 関西G研 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生前初期 (6) 対 象 雑草 一年生付科 全般 一年生広葉 全般 多年生付科 — 多年生広葉 — その他 — 設計 茎葉兼土壌処理 雑草発生前初期・芝生育期 薬量 0.02ml <100-200ml> (水量) 0.025ml <100-200ml> 0.045ml <100-200ml> /㎡ 0.05ml <100-200ml> 対) モノノット顆粒水和剤 雑草発生前初期・芝生育期 0.0045g <150-250ml>		

A. 除草剤

注)アゾグーラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 >は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
31. SYJ-194 フロアクト アミドミン:40.7% [シンジエンタ シンヤパン]	クナタキ アミドミン ラス	連用薬 査 継続	ダラシイ那須GC 新中国G研	ねらい 芝生育期、連用薬害 対 象 雑草 (2) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 土壌処理 雑草発生前、芝生育期 0.26ml <200-300ml>	実 ・ 継	実) [春夏作; (コウライシバ、ノシバ、ハニシバ) 一年生雑草 (雑草除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.125~0.25mL<200-300mL>/㎡ ・ 土壌処理 [春夏作; (ベントグーライン) 一年生雑草] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1~0.26mL<200-300mL>/㎡ ・ 土壌処理 注) ・ ベントグーラインでは黄化などの薬害を生じることがある [春夏作; (クナタキアミドミン) 一年生雑草(雑草除く)] ・ 芝生育期、雑草発生前 ・ 0.1~0.26mL<200-300mL>/㎡ ・ 土壌処理 継) ・ 年次変動の確認 (ベントグーライン、クナタキアミドミン) ・ 倍量薬害試験での確認 (コウライシバ、ノシバ、ハニシバ) ・ 連用薬害試験での確認 (ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン) ・ 実証試験での確認 (コウライシバ、ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン、ハニシバ) ・ 萌芽期薬害の確認 (コウライシバ、ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン、ハニシバ) ・ 高温期薬害の確認 (コウライシバ、ノシバ、ベントグーライン、クナタキアミドミン、ハニシバ) ・ 緑化木への影響の確認
32. SYJ-229 液 アミドミン:30.0% MDBA:3.0% 保土舎UPL	コウライシ バ	作用性 新規	植調研 関西G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑草 (2) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.3, 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>	継	継) ・ 効果、薬害の確認 (コウライシバ、ノシバ)
	コウライシ バ	適用性 新規	泉パナソニックGC 東日本G研 シンヒルズCC J埼玉 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑草 (6) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>		
	ノシバ	作用性 新規	植調研 関西G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑草 (2) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.3, 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>		
	ノシバ	適用性 新規	泉パナソニックGC 東日本G研 シンヒルズCC J埼玉 新中国G研 西日本G研	ねらい 雑草発生初期 対 象 雑草 (6) 一年生雑草 一年生広葉 多年生雑草 多年生広葉 その他 設計 薬量 (水量) /㎡ 茎葉処理 雑草発生初期、芝生育期 0.45, 0.6, 0.75ml <200-300ml> 対) アーゼラン液剤 0.5ml <200-300ml>		

A. 除草剤

(注)アウターラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 続 の 別	試験担当場所 <試験中など (致)>	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
33. TH913H4 フロアアル イマゾスルホン:40% 〔日本カーリンアンドカー デン〕	コウライシ ハ	適用性 継続	泉パナソニックGC 東日本G研	ねらい (2) 対象 雑草 一年生(科) ー 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 全般 その他 ー 設計 薬量 芝生育期 雑草発生前 <水量> 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> 対) イゾマドDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>	実 ・ 継	〔春夏作; (コウライシハ) 一年生広葉雑草〕 ・芝生育期、雑草発生前 ・0.2~0.4ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理 〔春夏作; (コウライシハ)、ノシハ、ベントグラス、カンタキープルグラス) 一年生 広葉雑草、ヒメタカ ・芝生育期、雑草発生前(3 葉期まで) ・0.1~0.2ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理 〔春夏作; (コウライシハ)チドリタカ類〕 ・芝生育期、雑草発生前 ・0.2ml<200~300ml>/㎡ ・土壌処理
	ノシハ	適用性 継続	泉パナソニックGC 東日本G研	ねらい (2) 対象 雑草 一年生(科) ー 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 全般 その他 ー 設計 薬量 芝生育期 雑草発生前 <水量> 0.2ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> 対) イゾマドDF 芝生育期 雑草発生前 0.03g <200-300ml>	実 ・ 継	・多年生広葉雑草に対する効果の確認 (コウライシハ、ノシハ、ベントグラス) ・発生前処理での効果、薬害の確認 (ノシハ) ・倍量薬害試験での確認 (ベントグラス) ・連用試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ベントグラス、カンタキープルグラス) ・実証試験での確認 (コウライシハ、ノシハ、ベントグラス、カンタキープルグラス) ・萌芽期薬害の確認 (コウライシハ、ノシハ) ・高温期薬害の確認 (コウライシハ、ノシハ、ベントグラス、カンタキープルグラス) ・緑化木への影響の確認
34. YS-034 粒 ブタミス:1.0% DCBN:0.50% N:P:K:Mg=16.5:5.5: 6.5:2.0 〔ヤマ産業〕	コウライシ ハ	適用性 新規	グランドテックGC J埼玉 静岡G場協会 門司GC	ねらい (4) 対象 雑草 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 <水量> 40g, 50g, 60g 対) 一任 /㎡	実 ・ 継	〔春夏作; (コウライシハ) 一年生(科)雑草〕 ・芝生育期、雑草発生前 ・40~60g/㎡ ・土壌処理 〔春夏作; (コウライシハ) 一年生広葉雑草〕 ・芝生育期、雑草発生前~初期 ・40~60g/㎡ ・土壌処理
	ハーマー タググラス	作用性 新規	東日本G研 新中國G研	ねらい (2) 対象 雑草 殺草スペクトル、薬害の確認 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 <水量> 20g, 30g, 40g 対) 一任 /㎡	実 ・ 継	・雑草発生前処理での一年生(科)雑草に対する効果の 確認(コウライシハ) ・効果、薬害の確認 (ハーマータググラス) ・連用試験での確認(コウライシハ) ・実証試験での確認(コウライシハ) ・萌芽期薬害の確認(コウライシハ) ・高温期薬害の確認(コウライシハ) ・緑化木への影響の確認
	ハーマー タググラス	適用性 新規	埼玉サシテア2002 浜松サシテGC 関西G研	ねらい (3) 対象 雑草 雑草発生前 一年生(科) 全般 一年生広葉 全般 多年生(科) ー 多年生広葉 ー その他 ー 設計 薬量 芝生育期、雑草発生前 <水量> 20g, 30g, 40g 対) 一任 /㎡	実 ・ 継	

B. 生育調節剤

注) アナグラインは新たに判定された部分

薬剤名 有効成分および 含有率(%) [委託者]	作物名	試験の 種 類 新・維 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等	判 定	判定内容
1. BES-004 液 エチオン:21.0% [h'イェルロップ・サイエンス]	ベントグ ラス	適用性 継続	東日本G研 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい スズメノカタビラ出穂抑制 設計 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 1.0ml⇒1.0ml⇒1.0ml <100-200ml> <水量> 1.5ml⇒1.5ml⇒1.5ml <100-200ml> /㎡ 対) ベンチグライブ 茎葉処理 3月上旬 0.04ml <100-200ml>	実 ・ 維	実) ・ [ベントグラス、ベンチグライブ・ルーグラス] スズメノカタビラ出穂抑制] ・ 芝生育期 スズメノカタビラ出穂前から3回処理 ・ 1.0～1.5mL<100～200mL>/㎡ (散布間隔 1ヶ月程度) ・ 茎葉処理 注) ・ 出穂を完全に抑える作用は弱いが、処理を重ねるにつ れ、スズメノカタビラの出穂数が徐々に減少する 維) ・ 倍量薬害試験での確認 (ベントグラス、ベンチグライブ・ルーグラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス、ベンチグライブ・ルーグラス)
		適用性 継続		ねらい スズメノカタビラ出穂抑制 設計 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 1.0ml⇒1.0ml⇒1.0ml <100-200ml> <水量> 1.5ml⇒1.5ml⇒1.5ml <100-200ml> /㎡ 対) ショートキープ 液剤 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 0.1ml <100-200ml>		
	ベンチグ ラス	適用性 継続	札幌国際CC 東日本G研 新中国G研 (4)	ねらい スズメノカタビラ出穂抑制 設計 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 1.0ml⇒1.0ml⇒1.0ml <100-200ml> <水量> 1.5ml⇒1.5ml⇒1.5ml <100-200ml> /㎡ 対) ショートキープ 液剤 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 0.1ml <100-200ml>		
		適用性 継続		ねらい スズメノカタビラ出穂抑制 設計 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 1.0ml⇒1.0ml⇒1.0ml <100-200ml> <水量> 1.5ml⇒1.5ml⇒1.5ml <100-200ml> /㎡ 対) ショートキープ 液剤 茎葉処理 3月上旬⇒4月上旬⇒5月上旬 0.1ml <100-200ml>		
2. NPK-063 水和 フルボ酸リミトール:50% [日本農薬]	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 生育抑制効果による刈り込み軽減 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.025g <250-300ml> <水量> 0.05g <250-300ml> /㎡ 0.075g <250-300ml>	実 ・ 維	実) ・ [春夏作: (コウライハ、ノシハ) 生育抑制効果による刈込軽減] ・ 芝生育初期～盛期 (刈込約1週間前) ・ 0.2～0.4g<250～300mL>/㎡ ・ 茎葉処理 維) ・ 低薬量試験での確認 (ベントグラス、ベンチグライブ・ルーグラス) ・ 実証試験での確認 (ベントグラス、ベンチグライブ・ルーグラス)
		薬害 新規		ねらい 低薬量複数回散布での薬害確認 設計 全面土壌処理 芝生育期(複数回) 0.075g×4回 <250ml> <水量> 0.15g×4回 <500ml> /㎡ 0.3g×4回 <1000ml>		
	ノシハ	適用性 新規	東日本G研 植調研 関西G研 新中国G研 (4)	ねらい 生育抑制効果による刈り込み軽減 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.025g <250-300ml> <水量> 0.05g <250-300ml> /㎡ 0.075g <250-300ml>		
		薬害 新規		ねらい 低薬量複数回散布でのノシハ 薬害確認 設計 全面土壌処理 芝生育期(複数回) 0.075g×4回 <250ml> <水量> 0.15g×4回 <500ml> /㎡ 0.3g×4回 <1000ml>		
	ベントグ ラス	適用性 新規	太平洋C美野里C 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい 生育抑制効果による刈り込み軽減 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.0125g <250-300ml> <水量> 0.025g <250-300ml> /㎡ 0.05g <250-300ml>		
		薬害 新規		ねらい 低薬量複数回散布での薬害確認。 設計 全面土壌処理 芝生育期(複数回) 0.05g×8回 <250ml> <水量> 0.1g×8回 <500ml> /㎡ 0.2g×8回 <1000ml>		
	ベントグ ラス	適用性 新規	札幌国際CC 東日本G研 新中国G研 (4)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.0125g <250-300ml> <水量> 0.025g <250-300ml> /㎡ 0.05g <250-300ml>		
		適用性 新規		ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 全面土壌処理 芝生育期 0.0125g <250-300ml> <水量> 0.025g <250-300ml> /㎡ 0.05g <250-300ml>		
3. RGP-101 液 既知化合物:2.0% [理研グループ]	ベントグ ラス	作用性 新規	(1)	ねらい スズメノカタビラに対する出穂抑制効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6mL <100-200ml> <水量> 0.9mL <100-200ml> /㎡ 1.2mL <100-200ml>	維 維)	・ 効果、薬害の確認(ベントグラス)
		作用性 新規		ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6mL×2回 <100-200ml> <水量> 0.9mL×2回 <100-200ml> /㎡ 1.2mL×2回 <100-200ml> 0.6mL×3回 <100-200ml> 0.9mL×3回 <100-200ml> 1.2mL×3回 <100-200ml>		
	ベントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 宇都宮大 理研グループ(自社) (3)	ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6mL×2回 <100-200ml> <水量> 0.9mL×2回 <100-200ml> /㎡ 1.2mL×2回 <100-200ml> 0.6mL×3回 <100-200ml> 0.9mL×3回 <100-200ml> 1.2mL×3回 <100-200ml>		
		適用性 新規		ねらい スズメノカタビラ密度低減効果 設計 茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 0.6mL×2回 <100-200ml> <水量> 0.9mL×2回 <100-200ml> /㎡ 1.2mL×2回 <100-200ml> 0.6mL×3回 <100-200ml> 0.9mL×3回 <100-200ml> 1.2mL×3回 <100-200ml>		

B. 生育調節剤

注) アンダーラインは新たに判定された部分

薬 剤 名 有効成分および 含有率(%) 〔委託者〕	作物名	試験の 種 類 新・継 の 別	試験担当場所 △は試験中など (数)	ねらい・試験設計 等		判 定	判定内容
4. RGP-101 液 (A剤との混用) 既知化合物:2.0% 既知化合物A:21% [理研グリーン]	ヘントグ ラス	作用性 新規	植調研 (1)	ねらい	スズメノカタビラに対する出穂抑制効果	継	継) ・効果、薬害の確認(ヘントグラス)
				設計	茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 薬量 <水量> 本剤 0.3ml+既知A1.0ml <100-200ml> /㎡ 本剤0.45ml+既知A1.0ml <100-200ml> 本剤 0.6ml+既知A1.0ml <100-200ml>		
	ヘントグ ラス	適用性 新規	東日本G研 宇都宮大 理研グリーン(自社) (3)	ねらい	スズメノカタビラ密度低減効果		
				設計	茎葉処理 スズメノカタビラ出穂前から出穂始期 薬量 <水量> 本剤 0.3ml+既知A1.0ml×2回 <100-200ml> /㎡ 本剤0.45ml+既知A1.0ml×2回 <100-200ml> 本剤 0.6ml+既知A1.0ml×2回 <100-200ml> 本剤 0.3ml+既知A1.0ml×3回 <100-200ml> 本剤0.45ml+既知A1.0ml×3回 <100-200ml> 本剤 0.6ml+既知A1.0ml×3回 <100-200ml>		
5. SYJ-111 乳 S-メトラホール:83.7% [シンジエンタシヤパン]	コウライシ ハ	作用性 新規	植調研 西日本G研 (2)	ねらい	ヒメタケの生育抑制効果 (発生前/発生初期)	継	継) ・効果、薬害の確認(コウライハ)
				設計	土壌散布 ヒメタケ発生前/発生初期、芝生育期 薬量 <水量> 0.25ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml <200-300ml> 0.4ml <200-300ml> 0.5ml <200-300ml>		
	コウライシ ハ	適用性 新規	東日本G研 関西G研 新中国G研 (3)	ねらい	ヒメタケ密度低減効果		
				設計	1回目:土壌処理 薬量 2回目:茎葉処理 ヒメタケ発生前(1回目)→1回目処 理約2ヶ月後(2回目)、芝生育期 <水量> 0.25ml→0.25ml <200-300ml> /㎡ 0.3ml→0.3ml <200-300ml> 0.4ml→0.4ml <200-300ml>		